

目次

- ・共働舎とんぼガーデン観察会…… 1
- ・田んぼから…… 1
- ・シェアリングネイチャー6原則…… 2
- ・ヤマアカガエルの春にくぎづけ…… 2
- ・カヤネズミの生息調査…… 3

- ・陶芸展「暖暖～ありがとう」…… 3
- ・雪の朝に見たものは…… 4
- ・見つけた、春の兆し…… 4
- ♪ページをめくるひととき・その4『14ひきのもちつき』…… 3

★共働舎とんぼガーデン観察会★11月18日(日)横浜市泉区の共働舎(通所授産施設)にて恒例の「秋まつり」が開催され、地域の方たちが大勢訪れました。

その際には催しの1つとしてとんぼガーデン(ビオトープ)の観察会「とんぼの気持ちで町をみてみよう 第2弾」も実施。6月に改修してから約5ヶ月、実際にどんな生きものがとんぼガ

ーデンにやって来たのか、池の中を中心に観察してみました。すると、なんとなんと、ヤゴが5種類も見つかったのです！見つかったのは、ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・シオカラトンボ・オオシオカラトンボ・イトトンボの仲間です。



夏から秋にかけて池を訪れたトンボが、そこで産卵もしてくれたということですね！ある程度予想していたとはいえ、やはり感激でした。

そして2月9日(土)には「あったかセールデー」の催しの1つとして「とんぼの気持ちで町をみてみよう 第3弾」を実施しました。ここでは、とんぼの視点に加えてカエルの視点も取り入れ、とんぼガーデンだけではなく、共働舎の回りや敷地内での生きものの移動のしやすさなどについても観察し、多くの生きものが暮らしていける環境のある町は、私たち人間にとっても暮らしやすい町につながるのではないかと、そんなことを考えました。

これに先立ち、2月1日には施設の利用者の方を対象にした観察会も実施しました。とても手ごたえを感じるものでした。

次回の観察会は3月22日(土)あったかセールデーにて開催します。観察だけではなく、植物の植え付けなどもやってみたいと考えていますので、興味のある方はどうぞいらしてくださいね！参加費は200円です。詳しくは私までお気軽にお問い合わせください。ほかにもパンや陶器、野菜の販売などもあり、きっと楽しい1日になりますよ！

○共働舎:横浜市営地下鉄立場駅より徒歩7分

★田んぼから★前号で稲刈り・ハザ掛けの様子をお伝えしました。ハザというのは、2mくらいの丸太杭で両端に三脚を組んで長い竹竿を上下2段に渡した物で、刈り取った稲をそこに掛けて天日で乾かします。

そのハザが台風などで倒れなきやいいけどなあと切に願っていたわけですが、何と10月27日の台風でバツリと倒れてしまいました！！もう、ショックでしたよ～。翌日は台風一過の青空でしたが、私はその晴れやかな天気とはうらはらに、ただ黙々と倒れて水に濡れた稲をまたハザに掛け直したのです。ほかにも倒れたハザがあったので、今回は仕方がないと言いつつ聞かせながら。

さてそんな苦労もありましたが、その後の脱穀を終えれば、ふーっやれやれ、今年の田んぼも一段落だあとほっとひと息つけるのでした。



脱穀とは、稲穂から籾(もみ)＝米の1つぶ1つぶを落とす作業です。昔ながら

の「足踏み脱穀機」を使つての作業です。前頁の写真はちょっと古いですが、足踏み脱穀機の手元の様子です。こうして脱穀されたあとに残った稲わらは大事に保管されて、縄をなったりわら細工をしたりするのに使います。

脱穀した籾は、籾すり・精米を経て調理に使える米になります。さあ、冬は餅つきです！

田んぼでは、12月はじめから3月はじめの啓蟄までは土の中の生きものに配慮して耕すのを控えます。その代わりに、水路を整備したり、堆肥をふるって田んぼに入れたりする大事な作業があります。

★シェアリングネイチャーの6原則★

「ネイチャーゲーム」の名前で日本で普及している自然体験プログラムはアメリカ人ジョセフ・コーネル氏によって発表されたものですが、原題はシェアリングネイチャー(Sharing Nature)=自然をわかちあうという名前です。

そのシェアリングネイチャーの基本的な考え方を改めて6つに整理した「6原則」が2007年の9月に日本で発表されましたのでご紹介します。

1. いつも受け身でいよう

Be receptive.

2. 教えるよりも体験し、わかちあおう

Teach less, share and experience more.

3. 深いよろこびの感覚を体験しよう

A sense of joy should permeate the experience.

4. 理想をめざして実践しよう

Make your idealism practical.

5. みんなの意識を高めよう

Uplift people's consciousness.

6. 自然のためだけでなく、自然とともに生きよう

Do things not only for Nature but with Nature.

いかがですか。私がネイチャーゲーム指導員の資格をとったのはもう10年以上前のことですが、この時にも学



ネイチャーゲームの1つ<私の木>

んだ「いつも受け身でいよう」には衝撃を受けました。その時の私の頭の中が「受け身」という言葉の持つネガティ

ブな側面に支配されていたせいもありますが、この考えはその後の私の自然案内人としての基礎を作るうえで、時に自戒もこめて繰り返し心の中で反すうする言葉となっています。

「受け身」というのは、人に対してと自然に対しての両方に言えることです。平たく言うと「無線機」を思い浮かべるとわかりやすいのですが、自分が発信し続けている限り、相手(人や自然)からは受信することができないのだ、ということです。

また、その次の「教えるよりも体験し、わかちあおう」も、同様に私が大切にしている原則です。

もちろん自然と人をつなぐ手助けをしようとする時に対象者や内容、目的やねらいによってはこうした考え方がそぐわないこともあります。そんな時にはうまく自分を切り替えていく必要がありますが、でも私にとってのこの原則は折りに触れて自分に問いかけていきたいと思っています。

★ヤマアカガエルの春にくぎづけ！★

この冬はこれまでの暖冬に慣れた体にはちょっと厳しい寒さですね。そのせいか、ここ2年ほどは1月下旬に産卵していたヤマアカガエルが今年は2月の立春直前にやっと卵を産みました。

ヤマアカガエルは、2月ごろの暖かい雨が降った夜に冬眠から目覚めて山から這い出し、田んぼなどの水辺に来て産卵するカエルです。そして、産卵を終えると本格的な春までまた眠ると言われています。

2月26日の夜、激しい雨が降った翌日はすっかり晴れて10時ごろには気温もそこそこ上がってきました。この日は近くの小学校の4年生と月例の自然観察会があり、私は題材にヤマアカガエルを選びました。もちろん、観察しようと考えていたのは前の晩に新たに産み落とされた卵や、もうオタマジャクシになっている卵などです。



ヤマアカガエルの卵塊

ところが！みんなで谷戸の田んぼを囲んでいると「クククククククッ」と雄のかわいらしい鳴き声。見ているうちに5~6匹の雄ガエルが出てきて互いにぶつかり合ったりし始めました。両側の頬を膨らませて鳴く様子もゆっくりバッチリ観察。それだけでもとても面白い光景なのに、もう引き上げようか

と思ったその時、畦際の山からカエルがピョンと出てきてポチャンと田んぼの中に入ったではありませんか！見るとでっぴりとした雌です。雄の声に誘われて出てきたのでしょう。子どもたちと「あっちに雄がいっぱいいるよ！」「ほらあ、雄はどこ見てるの！」などと言いながらなかなか雄と雌が近づいていかない様子にやきもきしながら声援を送りました。そして15分位してついに、1匹の雄がようやく雌に気づいてその背中にピョンと乗ったのです！（これを抱接と言います）「やったあ！結婚したあ！」とみんなで大拍手。

私にとってもこの光景は純粹にとってもとても興奮するもの



別の所で写した抱接の様子。円内に右向きにいます

のでした。ヤマアカガエルはカエルになると近くの林で過ごすのですが、そのことを確信することができたこと、

抱接までの一部始終を観察できたこと、その感動を子どもたちとともにわかちあえたこと。そして子どもたちがこのカエルを応援しながら親しみの気持ちを持ち、林と水辺がセットでないと生きていけないことをも理解してくれたこと。この日は観察会が終わってからも楽しい気持ちでいっぱいでした。

★カヤネズミの生息調査★今年はずミ年。だから、というわけでもないのですが、横浜市内のある場所でカヤネズミの球巣が見つかりました。私も別の場所で2006年、2007年とカヤネズミの調査をしていることもあり、知人のNさんから、どうもそれらしい物が見つかったので見てもらえませんか、と言われて年明け早々に確認に行

ったのでした。

行くと、ありました。それも1つではなく4個。そして少し離れた場所で4個。その日は都合8個の球巣を確認しましたが、数日後にまたNさんから連絡があり、さらにほかの場所でも見つかったとのこと。ネズミの研究をしている方と一緒に可能性のありそうな所をさらに調査しました。

カヤネズミはとても小さなネズミで、尾を含まない大きさはおとなの親指くらい(約6センチ)、重さは500円玉1枚分くらい(7～8グラム)しかありません。神奈川県では絶滅危惧種に指定されています。名前の通り、茅(カヤ=スキ)や荻(オギ)などのイネ科の植物の葉を裂いて編み、球形の巣(写真下)を作って生活しますが、私たち人間の生活の変化で茅場が減り、オギの生えるような湿地も減ったことがこの小さなネズミの生命を脅かしています。



しかし、巣がないから単純にいないと決め付けることもできません。もしかしたら、球巣を作れなくても枯葉の下や草むらなどで細々と生き延びているかもしれないのです。

ある生きものが「生息していない」という結論は、「いる」という結論よりはるかに難しいです。自然というものは本当に簡単に決め付けることができない、そういう面白みがあります。

★陶芸展「暖暖（だんだん）～ありがとう」★
横浜市栄区の授産施設 SELP・杜(セルプもり)の陶芸展「暖暖～ありがとう」に行って来ました(12月7日)。前号でお伝えした自然観察会「谷戸の学校」をきっかけにお付き合いが始まったOさんの職場で、今回お誘いいただいたのでした。「だんだん」は山陰地方の方言で「あり

コーヒーとともにページをめくるひととき…★その4

『14ひきのもちつき』いわむら かずお著、童心社、2007

私の「裏ライフワーク」は「餅つき」です。まあ、別に裏でなくてもいいのですが…。気持ちはあるけどそんなにガンガン進めていっていないので、とりあえず「裏」にしておきます。で、この絵本です。人気のネズミ「14ひき」シリーズの最新刊です★何と言っても、このリアルさに嬉しくなってしまう。私もかまどでもち米をふかしての餅つきを年に3～4回くらいやるのですが、細かい所がきちんと描かれていて、いい加減さがまったくありません。作者のいわむらさんも餅つき好きなんだろうなあ、やってるんだろうなあとにんまりします。つきあがった餅をちぎって丸めるところなども正確です。幼児と親を対象にした餅つきの前などにこの絵本を見せてあげるとイメージがわいてやる気が高まるかもしれないなあなどと思っています★餅つきはみんなで掛け声かけて力を合わせて汗かいて、最後には「おいしいね」って言いながらつきたてを食べる。最高の文化だと思います。

がとう」のことで。

施設の利用者の方が作った陶器がいっぱい並んでいて、目移りしてしまうほど。だいぶかかってコーヒーカップを2つ求めました。

1階にはレストランがあり、その横にはパンなどを販売しているお店がありました。この施設では、陶器やパン以外にも農産物として大豆を作っていて、それを原料にした納豆やとうふ、味噌も販売していました。

毎朝の食卓に納豆を欠かせない私は、夕方で値引きになっていた納豆を購入。翌朝、早速食べました(写真)。



大粒の大豆なので、小粒の物よりかえってよいかむことになり、大豆の味わいを楽しむことができました。

食料自給率の低

さが取りざたされる日本ですが、やはり地元の安心できる素材の物を食べたいものです。食にこだわるこの施設の真摯さも、納豆を食べながらかみしめてみた朝でした。

★雪の朝に見たものは★2月の初めの雪が降った翌朝、谷戸の道で見つけたのはノウサギの足跡でした。

このように、雪のあとはそこに残った生きものの足跡を探すのが楽しみでもあります。

ノウサギはいなくても、スズメやハトの足跡も、何だか新鮮に見えてきますよ。

雪ではありませんが、大雨が降ったあとのぬかるみも、鳥や犬や猫の足跡が観察できて、楽しいものです。



←楕円の中の、前に2つ並んでいるのが後ろ足、後の前後に並んでいる小さい丸が前足の跡です。矢印の方向に進んでいっているのがわかります。

★見つけた、春の兆し★2月中旬の晴れたある昼下がり、近所の道端でタチツボスミレが咲いているのを見つけました。

寒い寒いと言っても陽だまりではもうスミレの花が。しかもアスファルトの割れ目から顔を出しています。気がつけば



ご近所の庭では梅や水仙が花咲き、良い香りを漂わせています。沈丁花は？と見回せば、つぼみの丸いかたまりの中でやっと小さな花が1つだけ咲いていました。その1つだけ咲いている花に顔を近づけると、いいにおい。においってとても過去の記憶を呼び覚ますような気がします。

遠くに出かけなくても、小さな自然はすぐそこに。買い物や通勤の行き帰りに、ご近所の庭を楽しませてもらうのもいいものですね。



自己紹介★私は、横浜市の中里山を生かした公園のスタッフとして自然の保護・保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」として、フリーランスで自然体験・再生・創出のための仕事をしています。「気づき」を大切にするのが信条。最近ではビオトープ関連の仕事も増えてきました。この通信で自然のことや私がやっていること、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなことも、お伝えできたらなあと考えています★この通信は私が会った方や知っている方にお渡ししていますが、ご家族やお友達との回し読み歓迎です★ネイチャーゲームインストラクター・ビオトープ管理士・有)カルティバイトカンパニー 人と自然の研究所客員研究員★横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



***仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！→hiromi-h@river.dti.ne.jp 早川広美 (あおぞら自然共育舎)**